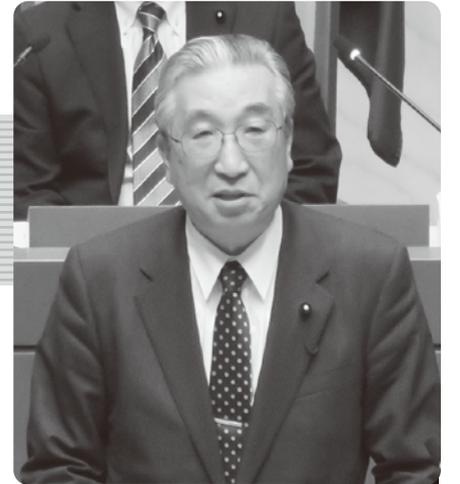


宿泊税・県美術館移転・女川原発再稼働問題など

村井知事の姿勢を厳しく批判



三浦がずっと県議団長が代表質問！

2月定例議会で2月21日、三浦議員は日本共産党県議団を代表し、大綱6点について質問を行いました。

● 宿泊税

復興後の観光振興財源32億円を確保したいがために、一泊3千円以上に一律300円を課税することは日本一高い宿泊税となり、そのやり方はあまりにひどく拙速ではないかと質したところ、知事は観光財源の必要性は『知事選の公約』とごまかし、関係者ヒアリングで7名の宿泊業者からも意見を聞いた、と答弁しました。

しかし実際に意見を聞いたのは、宿泊税が浮上した昨年11月20日以降で、観光振興財源検討会議の最終局面でした。今年の1月末から開かれた各地の説明会でも、宿泊業者の方々から「宿泊税は中小業者をつぶす」とか「知事に裏切られた」との批判と不満が続出しました。

三浦議員は「県民のささやかな楽しみを奪うことが知事のやることか」と厳しく批判し条例の撤回を迫りました。

● 美術館

現在の県美術館は、故前川国男氏がその集大成として設計した歴史的にも大変貴重なもので、しかも教育委員会が関係者の意見を集約し、現地でのリニューアルをすでに決定していました。

それを、県民会館の移転地の土地が埋められないからと、知事のトップダウンでひっくり返して美術館の移転とは何事かと批判。撤回して現地でのリニューアルという原点に立ち返るべきと迫りました。

知事は、「いろいろ批判もあることから、現在地と移転両方のメリット・デメリットを、時間をかけて検討したい」と答弁しました。歴史的価値を数字で比較することはやるべきではないと指摘しました。

● 女川原発再稼働



炉心融解対策や耐圧ベントの放射能放出の基準が大幅に上回る欠陥がある原発は安全とは絶対言えないと批判。また、女川原発の再稼働に必要な避難計画について、石巻市の小学校区（開北小学校区と蛇田小学校区）では避難には5日半から、最大で15日もかかる調査結果を示しながら「避難計画の実行性が疑わしい」と指摘し、再稼働中止を迫りました。

カジノ施設

誘致は難しい

500万円をかけてコンサルタント会社に検討させてきたIRカジノ誘致は、採算がとれず、ギャンブル依存症などが懸念されることもあり「IR施設を誘致することは難しい」と知事は答弁し、カジノ誘致は事実上断念しました。

代表質問で取り上げたテーマ

1. 新型肺炎への対応
2. 村井県政の問題点と課題
3. 宿泊税と県美術館の問題
4. 女川原発再稼働と避難計画
5. 上工下水みやぎ型管理運営方式について
6. 気候変動と水産業の課題

日本共産党
県議団ニュース

速報版

2020年2月 第38号

発行：日本共産党宮城県議会議員団
(控室) TEL 022(211)3523
FAX 022(268)6093
E-mail: info@jcpmk.jp